
そのポケモン、ハチャメチャにつき

デュランダル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そのポケモン、ハチャメチャにつき

【Nコード】

N2721Y

【作者名】

デュランダル

【あらすじ】

これは作者、デュランダルがポケモンになり、いろいろな世界を旅し、世界を救うアドベンチャー！今、その物語が始まるうとして
いる

そのポケモン、前世は事故につき1（後書き）

・・・ふう。なんで疲れてるかって？ソル君ボコして帰らせるのが
でしゅ*+*+*（つA、）

はあ・・・でも更新は続けますよ！

レックス「本当かな？」

ナルク「もしかしてこっちはかませ犬扱いか？」

チツ・・・（なんでいんだよめんどくせえ・・・）（黒激怒）

2人「なんか嫌な予感が・・・」

・・・とりあえず・・・殺す。

この後はご想像にお任せします；

そのポケモン、前世は事故につき2（前書き）

とりあえず続きです；いやぁー前回はみなさんすいませんね；
兎に角、これからどんどん書いて逝きますよ！！
それでは
どうぞ！

そのポケモン、前世は事故につき2

目が覚めたら、俺はすべて真っ白のハガンの理のような場所にいた。少しは驚くところ（コドコドー！？みたいな。）なのだが俺はなぜこんな所にいるかわかる。（気がする）俺は…死んだ。事故にあつて。

あの日、なぜか占い（テレビの）で俺の運勢ほぼ1位。特に興味があるわけではない。暇つぶしに見ている程度だ。しかし1位に（よい意味で）なつて悪い気分はない。

だからあの日、なんかいいことないかなと思つて外に出てみたらこれだ。だが外に出てちよつと散歩がてらいいこと探しどころじやなかった。騒がしいから行つてみればトラックがなんか暴走したつて言つてもいいぐらいのスピードで走つてた。（足が生えたー！とか言うなよ！そうゆう意味じゃないからな；）

……。それにぶつかった。それだけ言えばわかるだろう。衝突事故で死亡したつて事だ。

……。つて説明してたら変なのが来た。とりあえず聞いてみよう。いろいろと。

「おい、おっさん。あんただれじゃい。」

「ちょ、おっさんて！おっさんじゃねえよ！神だつーの！それに
おっさんつてゆう年でもねえし」

「じゃあ 辛の人だっけ？」

芸人・ハリセンボンはあるか「字が違うし芸人扱いか！神だって言うてんだろーが！」

「マジd「マジで！！」」

・・・うざいけど我慢。

「ほんと？」

「ほんと」

「うそ？」

神「ほんと」

「生きかえれる？」

神「転生ならOK」

「ゲームキャラOK？」

神「詳しいことは質問終わってからだけどOK」

こんな質問が1時間ぐらい続いてその後とりあえず・・・

「うゝゝん・・・」

神「おい、ゝとゝとゝを混ぜるな。」

「とりあえず、どゆこと?」

神「だゝかゝらゝ…はあゝもついいやゝもつ1回いづぞ? 転生OK
だけどポケモン以外無理だったの! わかる! ?」

「なんで?」

神「しるか! 一番偉い神が言ったことなんだから強制だ!」

「ええゝゝ俺が?」

神「そうだ。なぜかお前だけ」

「期待されてもなあ…」

神「…もうしらねゝとりあえずそのほかにいうことは?」

「えーと…チートまではいかなえぐらいまでだけでいいから強くして?」

神? 「いいお」 (^ - ^)

「あとは…ポケモンって空の探検隊みたいな世界なわけ?」

神? 「そうだね とにかく最初はプリのギルドみたいなもんだ
お」 (^ ^ ^)

「…みたいなもんって?」

神? 「キャラがちがうところがアルかも的な? w w」

「・・・おい」

神「なんだ？」

「なんで紙読んでんだ？&なんか軽くね？&なんかうざい。」

神「一番偉い神が送ってきた紙に書いてあった。」

「なぐる。」

神「あと記憶はOKだお　&名前も決めてるお　って書いてある。」

「名前つて？」

神「なんか魔法で書かれてるんでやばそうだから後回し。」

「強引だな；その神；」

神「そだな；とにかく簡単に説明する。」

・ポケモンはなるまでわからない

・技は練習すればオリ技もできる。（努力次第）

・少しチートあり。（自分はそうだけど相手は・・・稀に。）

・伝説・幻にはなれない。

・必ずしも同じ世界なわけではない

神「ぐわんぶありゅえ〜」

・
・
・

前言撤回

デュランダル「あ・うん。じゃね。」

神「ちょ、おm」

その後、俺の意識は途絶えた

神「やべ・・・2つ言い忘れた・・・もう無理か・・・」

そのポケモン、前世は事故につき2（後書き）

余談ですが、俺は、いつもは俺、目上の方には僕、としています。別に2重人格ではありません。

本当はこっちが本命です；

コラボしてくださる方募集します！コラボしてくださる方は感想にコラボの事、出すポケモン、技、（オリ技可）プロフィールを書いてください！なお、なにか無い限り、続けていきますので、よろしく願います！！

そのポケモン、記憶喪失につき1（前書き）

記憶っていつでも前回の事じゃないです。

・・・感想がいきなり2つ・・・感激です！

ミゲールさん、フォックさん、本当にありがとうございます！..

そのポケモン、記憶喪失につき1

目覚めた俺は・・・え？

ちよ、おま、まで。

ポケモンじゃなかったのか！？何で人間なんだ！？

そんなことを考えていたら1匹のポケモンが話しかけてきた。

その瞬間トンデモナイコトが頭の中でおきた。

いろんな記憶が頭に入ってきた。なに？話してほしいだ！？無理だ！！絶対に！多すぎる！！

・・・とまあ、困難だったが、（説明になってない）どうにか頭の整理をし終わった時、大嵐がおきた。

今乗ってるボートからして、耐えることは100%無理だということがバカでもわかる。

さらに、俺の近くにいるポケモンに向かって雷が落ちてきた。

なんでかわからない。でも、助けなきゃって思った。

その瞬間、その時に、俺の意識は途絶えた。

そのポケモン、記憶喪失につき1（後書き）

嗚呼、短いよう……（泣）しかも俺、不幸だよう。はあ……

次回はパートナーの視点です。ほら、あの、海がn……やばい。
ネタバレだけは阻止せねば！

と、いうわけでは次回です。

コラボ・評価・感想お願いします！

そのポケモン、記憶喪失につき2（前書き）

更新遅

61

! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !

スランプです……(T-T)

てゆーかやつと1つ思いついただけなんてひどいにもほどがあるよ！ええ？なんとか言わんかい！このクソ神が！（激怒）

神「無理、そして無視。」

・
・
・
・
・
殺す。

dfjhKSHrfjhふおてえすぐちふえふやILHE亜sじ
AHふあsぎふゆいzfgsyfずあげktfZOAERIくいり
やりやおTWGり!!!!!!!!!!!!

「おお神よ、死んでしまうとは情けない」

ああ、
疲れたーでもがんばる！

ちなみに今回は、違うポケモンの視点です。（準主人・・・ゲフンゲフン！！）

・・・とナレーションです。忘れるとこだった・・・

とにかく！第4話目までいけました！ワー。

それでは

どうぞ!!

無限 さん、ミゲールさん、フォックさん感想ありがとう御座いました!!

そのポケモン、記憶喪失につき2

ザザーン・・・ザザーン・・・ここは、とある海岸だ。そして、1匹のポケモンがその海岸の隅に倒れている。

???「う、うん・・・」

そのポケモンは何個もキズがあり、どこからどう見ても歩くのが無理、と言えるほどの大怪我をしている。

???「こ、ここは・・・」

そのポケモンはミカルゲ。いつもは笑っているような顔だが、さすがに今は笑っている状態ではない。

???「う、うう・・・くそ、目が霞む・・・うう・・・もう・・・だ・・・め・・・だ」

そっぴいとドサッ!と倒れてしまった・・・

残っているのはあの大嵐だけだった・・・

その翌日・・・

あの大嵐は去っていき、きれいな青空になっていた。

そしてその街の海岸から戻ってその奥の方にある、1つのギルドがある。

ギルドとは、困っている人^{ポケモン}が依頼主となり、依頼をギルドに送り、ギルドがその依頼をやり、依頼主から報酬を貰う場所だ。

そのギルドの入り口にとある1匹のポケモンがいる。

そのポケモンは、足が無く、頭と肩がゆらめいていて目が鋭い。

それは、暗黒ポケモンのダークライだ。名前はダラクという。（名前をどこで知ったかは内緒。）

ダラク「うゝん…どうしよう…」

その迷い方は、ギルドに入るのをためらっているかのようだ。早く入ってしまえばいいのに。

ダラク「でもこれは昔からの夢なんだ、ずっと前から入ろうと思ってたんだ！それにこの宝物だってあるんだ！よし、行こう！」

そうだ！がんばれダラク！負けるなダラク！…ハッ！ゴホンノ／＼ちなみにギルドの入り口は鉄格子でふさがれていて、その前にまで行くと、ポケモンが下から足型を見て（ポケモンの種類によっては足以外も）

確認した後、入れるという仕組みだ。

そしてダラクが鉄格子に近づいた時…いきなり下の方向から声がした。初めてのポケモン（人も？）には精神衛生上まことによるしくない。

???「ポケモン発見！ポケモン発見！」

という声がしたとき、他の声も聞こえた。

「???? 誰の足型? 誰の足型?」

すると先ほどの声がまたした。

「???? 「足型はダークライ! 足型はダークライ!」 (足型なのか?)」

ダラク「わあ!」

ダラクは驚き、サツと隠れてしまった

ダラク「はあ・・・今日も駄目だったか・・・」

どうやら今回だけではなく、違う時に行ったことがあるらしい。

すると不思議な模様の石を取り出した

ダラク「この宝物を握り締めていけば勇気も出るかと思ったんだけど・・・だめだったか・・・」

ダラクは石をしまった。そうとう落ち込んでいるようだ。

ダラク「はあ・・・なんで僕ってこんなに臆病者なんだろ・・・ホント情けないよ・・・」

そういうと、ダラクはギルドとは反対の方へ行ってしまった。しかし、ある二匹のポケモンが見ていたことをダラクは知る由も無かつ

た。

???「おいズバット、今の見たかよ」

ズバット「ああ、もちろんだぜドガース」

ドガース「アイツなんか変なもん持ってたけどよ、もしかしてなんかの宝物なんじゃねーか？」

ズバット「そうに決まってるだろ。あんな石は他には見ねーからな。」

ドガース「見たところ、アイツはビクビクしてたからな。簡単に奪えそうだぜ。」

ズバット「そうだな。そんじゃさっさと奪っちゃまおーぜ。」

2人「ヒヒヒヒヒ・・・」

二匹はそう言って、ダラクの後をつけて行った。

そのポケモン、記憶喪失につき2（後書き）

あーやっと書けたー；

疲れたーあ、でも次は早く書き込めそうです！

次回もお楽しみに！

そのポケモン、記憶喪失につき3（前書き）

うわーん（泣）更新遅れたよー（泣）最近逃走中作品見すぎたよー
（だって面白いんだもん！）orz

こんな作者ですが宜しく！

でわ

レッチュゴッ

そのポケモン、記憶喪失につき3

いきなりですが注意。

2と3はつながってるようなもので2を読んでから3を読みましょう。（別にそうしなくてもノープロBLEM！（問題なし）と思う人は読めばいいじゃん！）

ダラク「今日もいけなかったけど、ここはやっぱり癒されるね」
「（癒）」

ダラクは今、海岸にいる。なぜいるかは2を見よう。ちなみにこの海岸は夕方になるとクラブというポケモンが泡を周りに出す。そうすると、ちょうどきれいな景色になるのだ。（ダラク談）

ダラク「〜」
「」

もはやダラクは頭がおかしいほどに和んでいる。後ろにきずいていないのは一目瞭然だ。

ドガース「なんかもうこっさりいけば普通に奪えるんじゃない？」

ズバット「確かに…」

と、いうことで・・・ダラー！おい！・・・だめだこりゃ；大切な物を奪われてるのにきずいてないよ；

ズバット「普通に盗れたな・・・」

ドガース「んじゃさつさとあの洞窟に逃げ込むとすつか」

ズバット「そだな」

あーあ、盗まれちゃった；もー知らない；

ダラク「ん？なにかあるっていうか・・・誰か倒れてるー！」

そしてやつときずかれた主人公&やつと正気に戻った準主人公。いろいろ不安だ。はあ；

ダラク「えーと；どうしよう・・・と、とりあえずオレンのみで回復させてあげないと・・・えーと・・・これでもない、あれでもない、グミ・・・回復じゃない！あーもう！オレンのみが見つからないー！」

ちなみに今ダラクは自分のポーチの中を探している。オレンのみはポーチの奥に入っているため出しにくいらしい。その上、ほぼ無限に中からいろんな物が出てくる。まさに四次元ポケットのようだ；

ダラク「あ、オボンのみがあるからいいか。と、とにかく速く助けないと！こんなにすごいケガじゃすぐに死んじゃうよー！」

オボンのみなんてあったのかよ。とまあツツコミが終わったので説明に戻る。ダラクはとりあえずその場でできる応急処置をした。そしてさすがチート転生者の^{チートだから}体質と応急処置のおかげで意識を取り戻したのだ。（説明するととても長いので省略）

ミカルゲ「うーん…こ、こは…」

ダラク「あ、よかった…大丈夫？」

ミカルゲ「あ、もしかして助けてくれたのか？あんがとなー！」

ダラク「いやいや、倒れてる人がいたら助けてあげないとね」

ミカルゲ「見た目軽く怖めだけど結構優しいんだな！」

ダラク「（気にしてる事言われた…orz）そ、そう？あ、
そつだ、僕はダラク。君は？」

ミカルゲ「えーとね、デュランダルっていうんだ。それ以外はな
にもかも忘れちまつてるんだ。」

ダラク「うーんとね、今とんでもない言葉が飛び出してきた気が
するんだけど気のせいかな…？」

デュランダル「え？記憶が無いって所？」

ダラク「マジで？（^ ^;）」

デュランダル「…マジで。」

その瞬間、海岸からとてつもない叫び声が聞こえ、その後、この町
での7不思議の1つになったのだった…

そのポケモン、記憶喪失につき3（後書き）

うわー：ミゲールさんすいません：コラボのことですが、都合により、次回になりました：本当にスイマセン；

ちなみに、まだまだ募集&感想・評価、お願いします！

活動報告始めました。ヒマな人はみてね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2721y/>

そのポケモン、ハチャメチャにつき

2011年11月17日21時09分発行